

多彩な配線システムに注目 中心はカテゴリ6対応製品

配線工事ビジネスの専門展示会「ネットワーク工事機材展」が10月14日～15日の2日間、東京・北青山の青山TEPIAで開催された。10Gを睨んだ光ファイバー分野に注目が集っていた。

ネットワーク工事機材展(主催・リックテレコム、後援・情報通信設備協会、住宅情報化推進協議会、BICSI日本支部、日本CATV技術協会、全日本電気工業組合連合会、NPO高度情報通信推進協議会)は、今年8回目を迎えた。ネットワーク工事にフォーカスしたLAN配線工事業界唯一の、しかも商談に直結する専門展示会として定着しており、2日間で3272名が来場した。

展示会場には44社2団体1メディアが出展。各種ケーブルやコネクタなどの部材から配線システムラックや測定機器まで、ネットワーク工事全般に関連する製品が紹介されていた。特に、ギガビットイーサネットを金属ケーブルで実現できるカテゴリ6(CAT6)が2004年6月にJIS規格となったことから、対応製品が目立った。

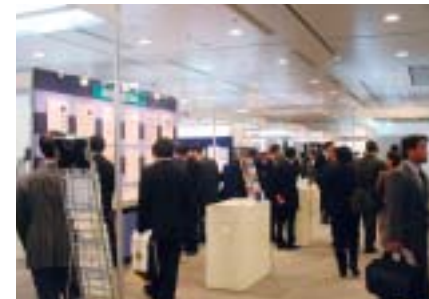
CAT6ケーブル続々と登場

ケーブル関連では、CAT6対応のシールドケーブルが登場してきた。CAT6は250MHzの高い周波数帯を使用する。このため、束ねたケーブルが相互に干渉してノイズが発生する「エイリアンクロストーク」が問題になる。シールドケーブルは内部の導線を金属で被覆し、外部干渉を防いでいる。

まず、金属ケーブルについて各社の展示内容をみた。

通信興業がScTP構造の新製品「TSUNET-1000E-LA AWG24-4P」を出展していた。これはアルミとポリエステルを張り合わせたアルベツテープを巻いたケーブルだ。

富士電線が展示していたシールド付きのケーブル「FS-TPCC6」は、ブ



賑わいをみせた展示会場

ラグ取り付け加工が可能な7mm以下の外径を実現した点が特徴になっている。

R&Mマーケティング・ホールディング日本支社(R&M日本支社)は、CAT6/CAT7対応各対シールドケーブルを展示。UTPよりも導径が太いため、高周波数帯が使用でき、10Gイーサネットにも対応するという。

今後の10Gイーサネット時代の主役ケーブルとされるのは、光ファイバーだ。金属ケーブルに比べて信号の減衰が少なく、電気信号と比べて光信号の漏れは遮断しやすいため、大量に束ねても相互に干渉しないという特徴もある。

光ファイバーケーブルで目を引いたのは富士電線だ。同社は昨年、IEEE802.3ae規格の「10GBASE-SR」に準拠した「10Gbit Fiber 300シリーズ」を展示したが、今年は10G伝送



通信興業の「CAT6 ScTPケーブル」



富士電線の屋外用CAT.6ケーブル「TPCC6-LAP」(左)とシールド付CAT.6ケーブル「FS-TPCC6」



R&Mマーケティング・ホールディング日本支社の「Cat.7ケーブル(各対シールド付き)」



コーニング ケーブルシステムズインターナショナルコープの「10GbE対応ネットワークソリューション」

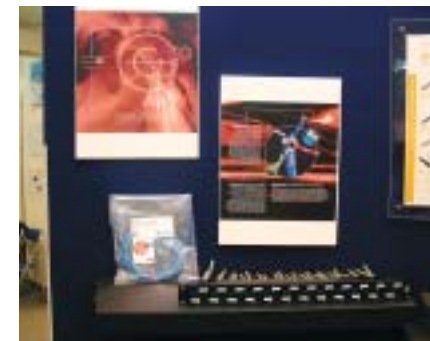
距離を500mにまで延長した「500シリーズ」もラインナップに加えた。

コネクタ関連では、光ファイバー対応製品が目立った。コーニング ケーブルシステムズインターナショナルコープ(コーニング ケーブル)は、1分で組み立てられる光コネクタ「ユニカムコネクタ」を展示。多くの来場者の関心を集めていた。

バンドウイトコーポレーション日本支社(バンドウイト)は、SCコネクタで約2倍の高密度実装が可能なLCコネクタを紹介。LCアダプター、LCパッチコードなどからなる「Innovative Fiber Cabling Solutions 2004」を出展した。

サンコーテレコムは、新製品の現場成端用光接続ツール「Optimax」のLCコネクタなどを展示していた。

ネットワーク配線部材では、タイトンがモジュラージャックなどの配線部材「SureLink」製品群を中心に展示。また、参考出品していた「CAT6パ



クロネージャパンの10Gケーブリングソリューション「CopperTen」



サンコーテレコムの「Optimax工具キット」

ッチコード」が目を引きいた。

電力供給型パネルが目を引き

配線システム・ソリューション関連では、10Gイーサネットを意識した出展が目立った。

クロネージャパンは、10Gケーブリングソリューション「CopperTen」などを紹介していた。同社では10Gのソリューションをメインに販売していく考えで、日本での実績はこれからだが、米国ではNASAや大学、研究機関などに納入しているという。

ザ・シーモン・カンパニーは、「10G6」「XGLO」「TERA」という3つの配線システムからなる「10Gipトータルソリューションシステム」を展示。コーニング ケーブルも「10GbE対応ネットワークソリューション」を展示していた。

SYSTIMAX Solutions / 高文は、UTP/光ファイバー配線ソリューションの「GigaSPEED XLソリューション」や、「SYSTIMAX 配線システムラック



ザ・シーモン・カンパニーの「10Gipトータルソリューションシステム」



タイトンの「Cat6パッチコード」

ク」などを展示。積極的なデモで、ブースは賑わっていた。

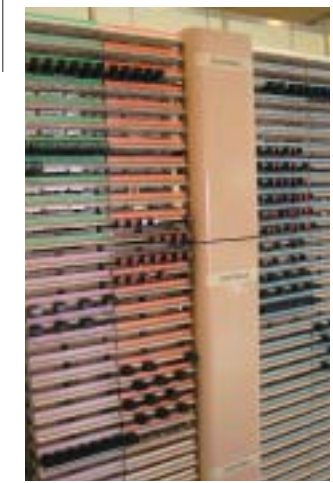
タイコ エレクトロニクスアンブは、パッチパネルやスイッチの接続状態を監視する配線総合管理・監視システム「AMPTRAC」を中心に紹介していた。

バンドウイトは、「PoE対応パッチパネル」と新製品の「電力供給型パッチパネルシステム」を強くアピール。IP電話などの用途に不可欠な電力供給を可能にした革新的な製品として注目を集めていた。

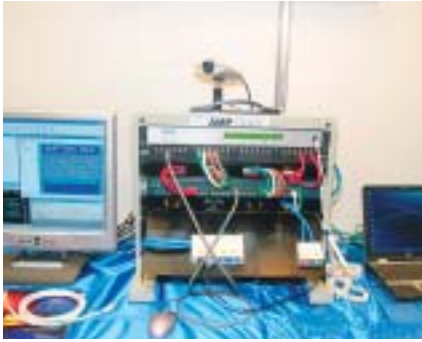
松下電工は、宅内LANパネル「ひらいてねット」や給電機能付ハブ「Switch-M24PWR」「Switch-M12PWR」などを展示していた。

このほか、R&M日本支社が、1000ポートを20Uで製端するIP電話用パッチパネルを紹介していた。

測定器関連では、フルーク・ネット



SYSTIMAX Solutions / 高文の「SYSTIMAX 配線システムラック」



タイコ エレクトロニクスアンプの「AMPTRAC」



フルーク・ネットワークスの「DTXデジタルケーブルアナライザー」

ワークスが、ケーブルテスターの「DTXケーブルアナライザー」などを展示。新製品の光ファイバートストツール「EtherScope」が目を引いた。

横河電機の展示は、新製品の光パワーメーター「AQ2160-02」や、LD光源「AQ4270-01」が中心。

このほか、ピーエスアイのメディアコンバータとマルチメディア伝送装置が注目を集めていた。



東京電力光ネットワーク・カンパニーの田代哲彦ジェネラルマネージャー(左)のセミナーは立ち見が出るほどの大盛況



松下電工の給電機能付ハブ「Switch-M24PWR」(左)と「Switch-M12PWR」



横河電機の光パワーメーター「AQ2160-01」(前)「AQ2160-02」(左) LD光源「AQ4270-01」(右)

FTTH事業に関心集まる

セミナー会場では、今回も多彩なセミナーやワークショップが用意され、多数の参加者が集まった。

テクニカルセミナーでは、職業能力開発総合大学校通信システム工学科教授で高度情報通信推進協議会副理事長の西澤紘一氏、東京電力光ネットワーク・カンパニージェネラルマネージャーの田代哲彦氏、情報通信設備協会関東地方本部理事の木村博氏、BICSI日本支部事務局長の加藤和夫氏の4名が講演した。特に、東京電力の田代氏の講演は、立ち見が出るほどの大盛況で、今後のブロードバンドインフラの主演となる



若尾和正氏の指導で熱心に実習するセミナー参加者



賑わいをみせるピーエスアイの展示ブース



バンドウイットコーポレーション日本支社の「PoE対応パッチパネル」

FTTHサービスへの関心の高さがうかがえた。

テクニカル有料セミナー「光ファイバー先端加工実践講座」では、若尾和正氏が、マルチモード光ファイバーケーブルの先端プラグの取り付け方法について、実演を交えながら解説した。若尾氏は参加者のテーブルを回りながら、丁寧に説明していた。

出展社によるワークショップでは、バンドウイットコーポレーション日本支社、タイコ エレクトロニクス アンプ、フルーク・ネットワークス、SYSTIMAX Solutionsの4社による詳細な説明に、参加者がじっくりと聞き入っていた。

▶